

二〇二三年度 茨城キリスト教大学一般選抜入学試験二期

国語

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章は、『実践 自分で調べる技術』の第一章の一部です。文章を読み、後の問に答えなさい。

A

私たちが生きているこの世界は、ほんとうに、いやになるほど複雑です。

私たち一人ひとりが、ただふつうに生きていこうとするだけでも、その都度その都度さまざまな制度にぶちあたります。いろいろな知識も必要とさ
れています。法律は数限りなくあり、その多くが私たちの生活に直結しています。福祉や医療についても、自分で学ばなければならぬことが数多く
あります。年金についても、ちゃんと知らないと将来、不安になりそうです。そして、それらを決める政治について、一人ひとりの確な意思表示が求
められています。

しかし、意思表示せよと言われても、簡単ではありません。一つひとつの問題について、多くのことが複雑にからみあっています。さらには、いろ
いろな利害、さまざまな価値観があることもわかっています。あちらを立てればこちらが立たずの状況も少なくありません。いったい何が正解なので
しょうか。

今日、この世界の複雑さを前に、巨大な役割を担っているのが、国家というしくみでしょう。巨大になった国家は、テーマごとに細かなセクション
にわかれ、各セクションがそれぞれ複雑な制度を作り上げています。そしてそこに、細分化された大量の「専門家」が加わり、大きなしくみを全体と
して動かしているように見えます。私たちはとりあえず、それに従っておけばよいようにも見えます。

a、国家の万能神話、専門家の万能神話は、世界中いたるところで崩れています。日本でも、巨大な資金を投じて進めてきた原子力開発が、
福島原発事故を生み、しかしそれでも原発をやめる政策に舵^かを切れないでいます。保育園の待機児童問題が、長年の指摘にもかかわらず、いまだに解
決されません。経済格差は広がるばかりです。

どうしてこんなに複雑になってしまったのか。どうして複雑になるばかりで問題は解決しないのか。困難をかかえた複雑さを前に、そこから逃げ出

したいと思う人が増えるのは無理からぬことかもしれません。しかし、そう思う人が多くなればなるほど、今度は b した議論が跋扈^{はつこ}しはじめます。「あの人たちが悪いからこうなっているんだ」、「〇〇を変えさえすれば社会はよくなる」。威勢のよい、そのような議論が幅をきかせることは、どうてい健全な社会とは言えないでしょう。

B

複雑さに耐えながら、しかし、国家や専門家に任せないで、自分たちのことは自分たちで決める。納得できる形で自分たちで決め、自分たちで解決する。それは、どうすれば可能でしょうか。この本は、その手段の一つとして「調べよう」と主張します。

私たちがふつうに生きていこうとするときに直面するさまざまな問題を考えるために、調べることが大いに武器になる。社会全体として解決しなければならぬ問題を考えるために、調査が活用できる。調査をうまく使いこなすことにより、私たちが私たちらしく生きていくことができる。この本は、そう主張したいと思います。

ちよつと調べればわかるはずなのに、調べないまま的外れな発言がなされている場面に、私たちはよく出くわします。「ちよつと調べれば」には、ちよつと文献に当たれば、もあるでしょうし、ちよつと詳しい人に聞いてみれば、もあるでしょう。ちよつと聞き取りをしてみれば、もあるでしょうし、ちよつと統計を見てみれば、もあるでしょう。

ちゃんと調べれば、解決の道筋が見えてくるはず。反対に、調べないまま解決策を考えると、的外れでとんでもないことになるかもしれない。問題はさらにこじれてしまうかもしれない。この本では、その「ちゃんと調べる」の道筋を、解説していきたいと思います。

調べることはむずかしくない

しかし、調査、というと、しりごみしてしまう人も少なくないかもしれません。調査なんて、大学の先生とか、研究所の研究者とか、そういう人たちがするものだ、と多くの人が思い込んでいるように思います。

ところが、「調べる」ということは、私たちが生きていくうえで、c 行っていることです。私たちは、何かをするときに、どこかで聞いた話とか、何かで勉強したこととか、テレビで聞いた話とか、そういったものをもとに行動しています。たしかに、調べて行動しているのです。ただし、この、ふだん行っている「調べる」は、不十分だったり、間違った情報だったりすることもあります。

不正確な情報に振り回されることを回避し、「ちゃんと調べる」ことを身につける。それはどうすればできるでしょうか。

何をめざす調査か

正確なことを調べるのは、じつは思うほどむずかしくありません。私たち一人ひとりが生きていくなかで必要なことを調べる。さらに、よりよい社会をつくっていくために調査する。この本では、その具体的な方策を検討していきたいと思います。

d、自分が暮らす町の高齢者福祉の状況はどうなっているのか。一人暮らしの老人は安心して暮らしているのか。貧困世帯はどういう困難をかかえているのか。また、近所の携帯電話基地局のアンテナは安全なのか。「空間除菌」グッズは本当に効果があるのか。あるいは、最近起きた災害の被害はどうなっているのか、復興はうまくいっているのか。さらには、自分の暮らす町ではこれからどんな環境保全を考えていくことが必要なのか。この町の農業の現状や課題はどういったものか。

私たちの社会がかかえている問題を解決する、私たちがより安心して暮らせる社会をめざす、そうしたことのための「調査」が、この本で主に想定されているものです。もちろん、同様の調査は、もつとさまざまな場面で使えます。職場や大学、社会教育などで使われる場面も十分想定しながら、この本を書きました。

C

しかし、市民による調査って言ったって、調査は本来は専門家が行うはずのもので、市民が行うのは所詮^{しよせん}そのeじゃないか。そういう見方があるかもしれません。

しかし、この本で主張したいのは、そうではないのではないか、むしろ、市民による調査こそが、ある意味、本当の調査研究ではないか、ということとです。これはどういうことでしょうか。

専門家は、その専門領域で議論になっていること、わからないことを、追求しようとしています。さらに今日、専門家はより細分化され、それぞれの専門家はその細かな専門のなかでの「正しさ」や「厳密さ」を追求します。専門家集団（学界）のなかで評価されることが、彼らには重要です。それはときに、私たちの本当の必要から離れた研究かもしれませんし、私たち市民にとってはあまり意味のない「正しさ」や「厳密さ」かもしれません。

一方、市民による調査は、自分たちが自分たちの生活にとって必要なこと、自分たちの社会にとって重要なことをやろうとしています。そして、具体的な解決策をめざします。社会を直接相手にするわけですから、その「正しさ」や「厳密さ」は、専門家集団によってではなく、社会によって検証されます。

さらに、市民による調査は、調査をする人と問題を解決しようとする人とが同じである、あるいは近いところにいる、という最大の特徴をもつてい

ます。調べて発表して終わり、ではなく、調べるなかでやらなければならぬことが出てきたら、どんどん実践する、ということも、市民による調査の有効性を示すものです。

(宮内泰介「調べるということ」〈宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』所収〉より なお本文に適宜省略・改変を加えた)

問一 空欄 A 〱 C には、それぞれの意味段落の小見出しが入ります。その小見出しに最もふさわしいものを、それぞれア〜エから選び、記号で答えなさい。

A ア 将来への不安

イ 巨大になった国家

ウ 世界は複雑

エ 万能神話の広がり

B ア 私たちらしく生きていくために

イ さらにこじれた問題とは

ウ 複雑さに耐える

エ 調べて解決への道を考える

C ア 調査をすることと解決すること

イ 市民による調査はなぜ有効か

ウ 調査は正しく厳密に

エ 時には専門家の調査から離れて

問二 空欄

| |
|---|
| a |
|---|

| |
|---|
| e |
|---|

 に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号を答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| a | ア | ところで | イ | たしかに | ウ | そして | エ | しかし |
| b | ア | 単純化 | イ | 相対化 | ウ | 複雑化 | エ | 権威化 |
| c | ア | 散発的に | イ | 日常的に | ウ | 包括的に | エ | 普遍的に |
| d | ア | たとえば | イ | しかし | ウ | ところで | エ | 一方 |
| e | ア | 尻ぬぐい | イ | 丸写し | ウ | 付け焼刃 | エ | 二番煎じ |

問三 次の1～5の文について、本文の内容にふさわしいものには○、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 現代社会が複雑になった最も大きな原因は、国家が巨大化したことである。
- 2 国家や専門家の万能神話が崩れた後、日本は正しい方向に舵を切れていない。
- 3 原子力の開発よりも、保育園の待機児童問題の解決を優先すべきである。
- 4 私たちは常に「調べる」行為を行っているが、それは「ちゃんと調べる」ことにならないこともある。
- 5 「調べる」ことは簡単だが、「ちゃんと調べる」ことはむずかしい。

問四 専門家でない、一市民たる私たちが「調べる」意義はどこにありますか。本文に即して、一五〇字以内でまとめなさい（句読点なども字数に含まれます）。

II

問一 次の①～⑤の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- ① 各党派の領袖が会合をけん引した。
- ② 優勝した力士に賜杯が授与された。
- ③ 冬景色を描いた絵には寂寥感が漂っていた。
- ④ 客船を埠頭まで曳航する。
- ⑤ 月日がたつても後悔の念に苛まれる。

問二 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① 英語を話す際にはヨクヨウをつけることが大切だ。
- ② キガねなく相談できる友人がいる。
- ③ 長い闘病生活を経てヘイユした。
- ④ 国王にハイエツが許された。
- ⑤ 器を傷つけないためのカンシヨウ材が必要だ。

問三 次の①～⑤の四字熟語中の□に当てはまる漢字を、それぞれa～dから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 付和雷□ | a | 堂 | b | 同 | c | 道 | d | 動 |
| ② | 周□狼狽 <small>ろうばい</small> | a | 床 | b | 省 | c | 昇 | d | 章 |
| ③ | 志□堅固 | a | 想 | b | 装 | c | 争 | d | 操 |
| ④ | 温厚□実 | a | 徳 | b | 得 | c | 篤 | d | 特 |
| ⑤ | 一□半解 | a | 知 | b | 致 | c | 治 | d | 置 |

問四 次の①～⑤の慣用句（傍線部）中の漢字が正しければ○、間違っていれば正しい漢字一字を書きなさい。

- ① 真剣な質問に対し、氣で鼻をくくるような説明がなされて不愉快だ。
- ② 主役として彼に白羽の矢が立った。
- ③ 彼は新人の時から異才を放つ人物だった。
- ④ 倒産に追い込まれそうになり、窮世の一策を講じる。
- ⑤ 同級生が何年ぶりかで一同に会して懇親を深めた。

問五 次の①～⑤の意味を表す語句として最もふさわしいものを、それぞれa～dから選び、記号で答えなさい。

- ① 奏功
 - a 作戦や手段によって目標通りの成果が上がること。
 - b 他人の成功を心から喜ぶこと。

- ②
レトリック
- c 大勢の人々に成功を祝ってもらうこと。
 - d 世の中の人に広く功績を知らしめること。

- ③
喝破
- a 文や言葉を明確にすること。
 - b 文や言葉を曖昧にすること。
 - c 文や言葉を簡潔にすること。
 - d 文や言葉を飾ること。

- ④
陶冶
- a 素質や才能を引き出し、育成すること。
 - b 詳しく知り抜いていること。
 - c 記録を塗り替えること。
 - d 他をしのいで上に出ること。

- ⑤
潤色
- a 色合いにおいて最も鮮やかであること。
 - b 文章や話を誇張してより面白くすること。
 - c 洗練されて垢ぬけること。
 - d 自信と余裕をもっていること。

国語 解答用紙

I

| | |
|----|---|
| 問一 | A |
| | ウ |
| | B |
| | エ |
| | C |
| | イ |

| | |
|----|---|
| 問二 | a |
| | エ |
| | b |
| | ア |
| | c |
| | イ |
| | d |
| | ア |
| | e |
| | エ |

| | |
|----|---|
| 問三 | 1 |
| | × |
| | 2 |
| | ○ |
| | 3 |
| | × |
| | 4 |
| | ○ |
| | 5 |
| | × |

小計

小計

小計

小計

総計

受験番号

II

| | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問四 | と | る | わ | だ | を | る | し | 専 |
| | に | と | り | だ | を | る | さ | 門 |
| | 意 | と | で | 市 | 置 | そ | 「 | 家 |
| | 義 | も | は | 民 | き | れ | や | の |
| | が | に | な | の | 市 | は | 「 | 調 |
| | あ | 、 | く | 「 | 民 | 、 | 嚴 | 査 |
| | る | 社 | 、 | 調 | は | 専 | 密 | と |
| | 。 | 会 | 具 | べ | 自 | 門 | さ | 市 |
| | | そ | 体 | る | ら | 家 | 「 | 民 |
| | | の | 的 | 「 | の | が | に | の |
| | | も | な | は | 生 | 学 | は | 調 |
| | | の | 解 | 、 | 活 | 界 | と | 査 |
| | | か | 決 | 調 | に | 内 | き | に |
| | | ら | 策 | べ | 基 | で | に | 求 |
| | | 検 | を | て | 準 | の | 違 | め |
| | | 証 | 順 | 発 | を | 評 | い | ら |
| | | さ | 次 | 表 | 置 | 価 | が | れ |
| | | れ | 実 | し | く | に | 生 | る |
| | | る | 践 | て | か | 基 | ま | 「 |
| | | こ | す | 終 | ら | 準 | れ | 正 |

(一五〇字)

(二〇〇字)

| | | | | |
|----|---|----|----|-----|
| 問一 | ① | り | よう | しゅう |
| | ② | し | はい | |
| | ③ | せ | きり | よう |
| | ④ | え | い | こう |
| | ⑤ | さい | な | まれる |

小計

| | | | |
|----|---|---|---|
| 問二 | ① | 抑 | 揚 |
| | ② | 気 | 兼 |
| | ③ | ね | |
| | ④ | 平 | 癒 |
| | ⑤ | 拝 | 謁 |
| | | 緩 | 衝 |

小計

| | | |
|----|---|---|
| 問三 | ① | b |
| | ② | d |
| | ③ | d |
| | ④ | c |
| | ⑤ | a |

小計

| | | |
|----|---|---|
| 問四 | ① | 木 |
| | ② | ○ |
| | ③ | 彩 |
| | ④ | 余 |
| | ⑤ | 堂 |

小計

| | | |
|----|---|---|
| 問五 | ① | a |
| | ② | d |
| | ③ | b |
| | ④ | a |
| | ⑤ | b |

小計